

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所)

事業者名	有限会社ライジング グループホームなごみ	評価実施年月日	平成19年9月6日
評価実施構成員氏名	施設長 : 三木 泉 管理者 : 栗田 裕子 計画作成担当者 : 栗田 裕子 (すいせん (一階))		
記録者氏名	栗田 裕子	記録年月日	平成19年9月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>その人らしく暮らしていくことが出来るよう、事業所独自の理念を作り上げサービスを行っている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>スタッフ間の意識統一を図るために、勤務中は携帯用の理念カードを身につけ、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	全ての職員が理念を述べる事が出来、理念の元にケアを提供できるように取り組んでいきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ホーム内で家族や利用者が見えるところに理念を提示したり、運営推進会議の中でも理解を得られるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近所の方が花を植えに来てくださったり、菓子などのお裾分けなど気軽に立ち寄ってくださる方がいる。</p>	○	子供も気軽に立ち寄り、子供好きな入居者との交流を図れるよう取り組んでいきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内の行事の参加や手伝いなどを積極的に行い交流に努めている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>現在のところ取り組みは行っていない。</p>	○	地域の高齢者等の実態把握に努め、事業所の力を生かしたサポートを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフ全員が自己評価に関わり具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>二ヶ月に一度運営推進会議を行い、利用者やサービスの状況等の報告や話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に生かせるよう取り組んでいる。</p>	○	運営推進会議は取り組みを初めてまだ月日が浅いため、今後少しずつ取り組みの成果が出てくると思われる。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市の担当者と連絡を密に取りながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>事業所内の勉強会で学ぶ機会を設けている。また講習を受けたスタッフが内容を伝えている。</p>	○	必要な人にはサービスを活用できるよう支援していきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>ケア会議の後学ぶ機会を持ち職員全体に虐待に対する意識の強化を図り防止するよう努めている。</p>	○	事業所内にて虐待についての勉強会を行っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>常に入居者やご家族の立場に立ち十分な説明を行い不安や疑問点の解消を図りながら理解や納得を得られるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が意見、不満、苦情を常に言える雰囲気作りに配慮し、入居者の意見、不満、苦情をスタッフ間で共有し、その都度問題を残さないように努力し運営に反映させている。	○	全てのスタッフが入居者との信頼関係を築き意見や不満、苦情をもっと表しやすい雰囲気作りをしていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族とは電話等で密に連絡を取り合い、入居者の生活の様子や職員の状況等を伝えている。 また月に一度近況報告という形の新聞を発行している。	○	職員の異動についても報告を行っていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を定期的に行い要望などを聞く機会を設けている。また玄関に苦情や不満、意見要望などを記入して入れるボックスを設置しスタッフ間で共有し問題を残さないように努力、対応し運営に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のケア会議の時に意見の交換をしている。またそれ以外に職員からの意見があればその都度聞き入れ運営に反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状態に合わせた勤務の調整に努めている。	○	急な対応にも応じられる勤務態勢を維持できるよう調整を図っていきたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設当時からスタッフの入れ替わりはあるが、新しく入社するスタッフに関しては本格的な勤務に就く数日前から入居者と顔なじみの関係になれるような時間を設けている。また勤務に就いてからも入居者に統一したケアが出来るよう教育を行っている。	○	スタッフ同士がコミュニケーションをとれるような雰囲気作りと、勤務態勢についてはスタッフの要望を聞き入れるなどして離職を抑える努力をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>全てのスタッフが講習や研修に参加できる機会を多く持てるように取り組んでいる。またスタッフ会議にて研修内容を発表し勉強会を行ってケアの工場に勤めている。</p>	<p>○</p> <p>今後スタッフのさらなるスキルアップになるような講習や研修に参加できる機会を作っていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者交流の機会は管理者やケアマネの間ではあるが、他の介護職間同士の交流の機会は持っていない。</p>	<p>○</p> <p>同業者間の交流は同じ職種に限らずサービスの質の向上の為に気軽に情報交換の場や勉強会の機会を設けていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>仕事上の悩みをスタッフ同士が話し合える環境は整備できている。</p>	<p>○</p> <p>ベンソン法を取り入れている。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者はスタッフ個人個人の努力、功績、勤務状況を把握し個人個人が向上心を持って働けるように配慮し、働き続けるための取り組みに努力している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居初期には本人が不安にならないよう常にスタッフが本人と接する時間を多くもてるようにし傾聴しコミュニケーションが図れるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族とはいつでも話を持てる機会を作り、今後の方針を相談し合いよいケアを提供できるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者の状態に合わせたケアプランを立案し家族と相談しながら今後入居者が一番よいと思われる生活を提供支援できるようにしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人とのコミュニケーションを図れる時間を多く持ち、少しずつホームの雰囲気に馴染めるように務めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に過ごしながら共に学んだり支え合う関係を築いている。	○	料理の調理法、味付けなどスタッフが入居者から学んでいる。畑に関しては入居者からの指示でスタッフが作業を行ったりしている。入居者に花を生けていただいたり裁縫をしていただいたりしながら助け合っている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者や家族が安心して生活が出来るようよい関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族との関係の理解に努め生活状況の報告を家族と密にはかり信頼関係を今まで以上に築けるよう努力し支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	本人が大切にしてきた家族や友人など人間関係はケアを支援していく上で重要であり、大切なものであるため相互に訪問し合い交流が継続していけるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人一人がお互いに尊重し合い入居者同士が関わり合いをもてるよう手助けをして、ホーム内のよい雰囲気を作るよう努力している。	○	孤立しそうな入居者がいるときはスタッフが間に入り共通の話題などでコミュニケーションをとり入居者同士が関わり合えるよう努力している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院のため退去されても入院先に出向き関わりを持つように努めている。またホーム以外で家族の方と会ったときでも本人の状況を聞くなどして関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人のニーズを把握し思いや暮らし方の希望、意向を尊重することに努めている。その人らしい暮らしが継続できるよう努力している。	○	入居者の思いをくみ取り、その人らしい暮らしが継続できるよう今後も努力を続けていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活習慣、環境などこれまでのサービス利用の経過等の把握に努め、ご本人にとってのこれからの生活を家族や本人との話し合いにより今まで以上によい環境で生活が営めるよう努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者にとって毎日が過ごしやすく居心地のよい環境作りを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成に当たって関係者の意見やアイデアを反映させるよう努めている。	○	入居者本意の介護計画を作りより一層のサービス向上をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じての見直しと状況の変化に応じた新たな計画を関係者と話し合いながら作成している。	○	スタッフや家族、必要な関係者との情報交換を十分に行うように話し合いながら入居者にとって最善の介護計画を作成していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別に入居者の日常の生活状況を記録し、その日の健康状態や精神状態をスタッフ間で有し実践やケアプランの見直しに生かしている。	○	個別記録には今までよりも詳細な記録を心がけ情報を共有し今まで以上ケアの実践に生かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所としてはグループホームのみの運営を行っている。今のところ他の利用方法の計画はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察・消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的にボランティア、慰問などに来てもらい入居者の生活の中で娯楽としての楽しみ方を多くもてるように努めている。市のセンターなどでイベントなどがあるときは努めて出かけるようにしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスの活用は行っていない。	○	今のところ行っていないが入居者のニーズにあった支援を行っていく上で必要性が高くなると思われる。今後取組んでいきたいと思っている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが今年度より始動し今後協働していく予定である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者をよく知るかかりつけ意志の確保は整っている。 また訪問看護ステーション間い契約をし看護師との連携も取れている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師が地域にいて相談したり治療を受けられる体制が整っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所としては看護職員は確保されていないが地域の訪問看護ステーションと契約し健康管理を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が疾病等で入院した場合、病院関係者と情報交換を行い早期退院に向け努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方について本人や家族、かかりつけ医等と話し合いを行い、方針を共有できるよう努力している。 かかりつけ医によっては非協力的なところもあり、スタッフはケアや処置に迷いや不安の出る場面があった。	○	かかりつけ医によっては非協力的なところがあり、スタッフは処置に迷いが出てきたりと不安な場面も度々あった。今後はスタッフが不安や迷いが生じないよう、医師の協力が得られるよう努力していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホーム側では医療行為の出来る範囲は限られているが、入居者や家族が希望された場合はかかりつけ医と共にチームついで支援に取り組んでいる。	○	重度、終末期の利用者をよりよく暮らせるための支援を医師、看護師、介護スタッフ、家族等が状況の変化を見極め検討、準備を行い安心してケアが出来るようなチームワーク作りに取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えの時は家族や関係者と十分な話し合いや情報交換を行い住み替えによるダメージを防ぐ努力をしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人一人を尊重し、入居者に合わせた言葉遣いを徹底した対応をし、記録などはファイルして保管し個人情報の取り扱いには注意を払っている。</p>	○	<p>今以上にプライバシーの確保に努めたい。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言葉がけや会話の内容は一人一人の状態に合わせて行い、自己決定を出来やすいように支援している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>可能な限り本人の希望に添う支援をしている。 入浴の時間は希望に添えない場合がある。 外出、買い物の希望は時間やスタッフの人数により実施できない場合がある</p>	○	<p>それぞれのペースを大切にその人の時間を無理のない安心できるその人らしい生活が送れるよう支援していきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人が希望すれば理美容室へ外出している。 髪染めや髪型は本人の希望があれば職員が行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。</p>	<p>食事の準備や片付けを全員ではないがその人に合わせてスタッフと行っている。 入居者の好みのものを献立に取り入れている。</p>	○	<p>今まで以上に食事を楽しむことが出来る支援を考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	出来る限りその人の状態に合わせ楽しみとして提供している。	○	飲酒を希望される方には晩酌をさせていただいている。飲み物やおやつは好みのものを提供している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の失敗を減らすため、排泄のパターンや尿便意などのサインをつかみ取るなどトイレへの誘導や介助を試みている。	○	その人らしい生活を提供できるよう支援していきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	出来る限り本人の希望に添えるようにはしているが職員の手が余っているときに限られるため個々の希望に添えない場合もある。	○	今後は出来る限り本人の希望に添える支援をしていきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者個々の生活パターンが違うため個別に休んでいただけるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	季節のお花を生けていただいたり、ドリルをしたり、将棋の好きな入居者の相手をしたりしているが忙しいの一言でテレビばかりが相手になってしまいそうな日もある。	○	声かけをうまくして全員が参加していただけるレクリエーションを企画したい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	床屋での支払いを自分で済まされたり、買い物頼まれた後でスタッフに支払いをしてもらったりしている。	○	買い物に行ったときは本人が欲しいものを選び購入、支払いが出来るよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出の機会は出来るだけ多く設けている歯時間帯によっては希望に添えないこともある。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者と話し合いを多く持ちながら様々なところへ行く機会を設けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が望むときに電話がかけられるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関を整理し花を飾り、チャイムが鳴ったら笑顔でお迎えするようにしている。来訪者がくつろいでいただけるように職員や入居者が御茶等を出している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会に参加し、職員も拘束を正しく認識し常に拘束のないケアを実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけておらず、家族等も自由に訪問が出来る状態になっている。夜間はその時の状況で判断している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に入居者の様子や所在を把握し安全に配慮しながら本人にとってさり気ない介助を実践している。	○	職員が入居者に統一したケアを提供できるよう入居者の一日の生活を把握し今以上に入居者の安全確保に留意できるよう努めていきたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態に応じ注意の必要な物品は目のつかないところに保管するなど危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故等が発生したときは速やかに対応し、事故等が今後発生しないように話し合いを持ち事故防止に取り組んでいる。また事故等が発生したら事故報告書に記入しファイルし保管している。	○	今後も今以上に事故防止のための取り組み強化に努めたい。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	一年に一回は全ての職員が訓練を行っている。	○	消防署で行っている普通究明講習会にはスタッフ全員が参加している。今後も参加していく予定である。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回、避難訓練を職員全員で実施し迅速に避難誘導が出来るようにしている。町内会の方に助けていただくようお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	今現在起こりえるリスクの可能性を常に考え少しでもリスクを減らせるよう職員が意識し実践している。リスク回避のためにご家族や入居者にそのことを伝え対応策を話し合っている。	○	家族等に説明し暮らしやすい環境を作っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常的に職員は入居者の身体状況の把握に努め実践している。状況に応じ訪問看護師や医療機関に相談し速やかに対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者が服薬している薬の目的や副作用などを職員は理解し、変更がある場合などはその都度確認し周知徹底するようにしている。医師の指示の元服薬を支援している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事や水分、食後の排便誘導などで自然排便を促しているが、自然排便が不可能な入居者には下剤を使用し排便コントロールを行っている。食物繊維の多い食事を提供したり、声かけなどで体を動かしてもらい工夫をしたり腹部マッサージなどを行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後自分で口腔ケアをしている入居者もいるが、介助や最終チェックが必要な方にはその都度支援している。ただし毎食後ということにはなっていない。	○	入居者全員に毎食後の口腔ケアをしていただけるように時間をうまく使いたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養摂取については各入居者の嚥下状態や摂取量に対応し、量や形態に気をつけている。不足分についても栄養補助食で対応している。病院の検査結果も参考にしている。水分量はほぼ全員毎日把握し対応している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作り見やすいところに掲げている。インフルエンザ流行期には職員、入居者全員が予防接種を受けている。面会の方には手の消毒、風邪を引いている場合はマスクを使用してもらっている。職員の出勤時には手洗いやうがいを行っている。	○	感染症マニュアルの内容をスタッフ全員に周知する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防として毎日布巾やまな板を殺菌消毒し衛生面に気をつけている。 食材は消費期限を守るよう徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	二つの玄関にはそれぞれユニット名を掲げ、自由に親しみやすく出入りしていただけるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間において不快な音や光を出さないよう配慮は行っている。 ただし季節感を取り入れるまでには至っていない。 行事等、季節を感じるものは取り入れている。	○	ホームの共有空間にも季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室においては一人になれる空間ではあるが、フロアには常時人がいるため一人になれる空間はない。	○	入居者のニーズにあった居場所の工夫をしていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、ご家族に説明し使い慣れたものを持参していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	夏などは窓を開放し常に温度に気を配っている。 冬など寒い季節にも暖房の他にも簡易ストーブなどを使用し入居者のニーズに応えている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、風呂、廊下等には手すりを多数設置し転倒がおこらないよう工夫されている。	○	入居者が安全に生活を営める環境作りに努めたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレなど分かりやすいよう名称を掲げ出来るだけ自ら行動できるよう工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	施設前に花壇を設け、草花を採り室内に飾るなどして楽しめるようにしている。また、畑も設け畑仕事にも取り組めるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓ ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ✓ ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ✓ ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>✓ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ✓ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ✓ ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

スタッフ同士は互いにコミュニケーションを取りよい関係となっている。情報交換や意見交換もしやすい雰囲気となっている。
入居者に対してスタッフは入居者の立場に立ったケアを常に心がけ、入居者がより居心地よく過ごしていただけるよう日々工夫を重ねている。